

犯罪を防止するために

小野町立浮金小学校 6年 藤井 りょう

私は、ニュースを見ていて、殺人事件、いじめなど心が痛くなるニュースが多いなあと感じている。犯罪はやってはいけないことと誰もが知っていることである。しかし、なぜ罪を犯してしまうのかを考えてみた。

例えば、小・中学生が万引きをした話を聞くことがある。その万引きをしてしまった人たちは本当にお金に困っていたのだろうか。実情は違うようである。その理由の多くが「友達がやってしまったから」や「ゲーム感覚でやってしまった」などと答えているという。一人一人はいけないことと分かっている、集団になると違うのだ。万引きをすることにスリルを感じてしまうようである。

同じようなことがいじめにも言える。一人をターゲットにし

てみんなでいじめ、いじめられるのではないと自分がいじめられるのではないかという思いが、結局、人をいじめることになっていくのである。根本にあるものは、いじめも万引きも同じだと思う。

つまり、「みんなと一緒にやる」「友達と同じでないと不安」そんな気持ちが万引きをしている人の気持ちのようである。また、いじめをしている人は仲間はずれにされることを恐れるあまり、いじめをしたくない優しい気持ちを持っている人までも集団になると正しい判断ができなくなってしまうのである。

このようなことが私の身の回りにないかを考えてみると、本当に小さいことだが、似たようなことがあることに気付いた。ある男子が一人の男子の間違い

を指摘し、強い調子で言い、その言葉を聞いて、他の男子が同じようなことを同じ口調で言う。また、他の男子も次々と：「言われた方は黙り込んでしまった。給食中であつたので、先生がその話を聞いていて「言い方がきついわよ。もっと優しく言ってみて」と注意した。いじめるとは言わないが、このような小さな小さなことの積み重ねが、大きな事件になっていくと思う。いじめが報道され加害者の少年のことが話題になる。でも加害者をつくらないことが必要だ。一人一人が自分の意見を持つことが大切である。そして、はつきり自分の考えを話すことが必要なことだと感じてくる。他にはないだろうか。

私の家では、母と父は実におおらかで「りょう、友達と違っても気にしない」と私に言う。だから、私はみんなと違ってても気にも留めずにいられた。こうして考えると、非行・犯

罪のない明るい社会にしていくには、他の人との違いを恐れないことも大切に思えてくる。金子みすずの「私と小鳥と鈴と」の詩の中にある一文「みんな違ってみんないい」という精神だ。互いを大切にできる環境、互いの違いを認める環境が明るい社会をつくることができると思う。校長先生は、よく朝の会でいろいろな人がいることを話してくれた。私のできることは小さいが、他の人を認めることから始めたいと思う。互いに尊重し合うことが明るい社会づくりの基盤になると思うのである。小さなことの積み重ねが社会を大きく変えていくのではないだろうか。



作文を発表する藤井さん